山都町立潤徳小学校　学校だより

狭霧（さぎり）の朝

潤徳小HP
QRｺｰﾄﾞ

令和４年９月１５日（木）　第３０号
校　長　池部　聖吾智（みわとも）

教師は「授業」で勝負　～一人も取り残さない熊本の学び～

一日の学校生活時間の大半は授業が占めています。だからこそ、教師は「授業で勝負」しなければなりません。私も時間を見ては、教室に入り込み、学級担任と共に授業づくりに取り組んでいます。担任不在時の補欠は当然ですが、机間巡視しながら「この子は、どこでつまずいているのかな？」という視点を持って観察し、必要な助言をするようにしています。

子どもにとって、授業が苦痛になってしまったら、学校がとてもツマラナイものになってしまいます。また、私はずっと中学校教師人生だったので、子どもたちが中学校に進学した時のことを想像しながら学校経営を進めています。さらに、私には幼稚園教師をしている娘という強い味方がいます。幼保との連携も常に頭にあります。

私の専門が「数学」ということで、算数を中心に授業に入ることが多くなっていますが、せっかく小学校に勤務しているので、いろんな教科に顔を突っ込みながら勉強していきたいと思います。

本校の読書状況から

読書にはいろんな「チカラ」があることを知ってほしい！

14日（水）の校内研修（先生方の学びの場）において、衝撃のデータが示されました。下の表は本校児童1人あたりの本の貸出数の推移です。ちなみに、本年度は、9／13現在で1人あたり22.8冊となっています。先生たちの話では、「貸出処理をせずに読んでいる部分も多い」とのことですが、昨年度の落ち込み具合は極端です。最近の全国・県学力学習状況調査において読書機会の少なさが一要因となっている課題（読解・表現力）も見受けられました。私自身、「こんなに楽しくて、元気づけられて、役に立つのに・・・実にモッタイナイ!!」という思いでいっぱいです。現在、先生方や町司書教諭の新本先生に今後、「子どもたちの読書機会をどうやって増やしていくか」について考えてもらっているところです。学力向上の目的もありますが、私は純粋に「読書の楽しさ」を味わってもらいたいです！

令和元年度	93.3冊
2年度	81.1冊
3年度	36.8冊

潤徳抄

２学期が始まると同時に、一・二年生軍団の校長室来訪（笑笑）が再開した▼一学期と大きく変わったのは、校内を走り回らなくなったことである。運動会の練習を機に、全校児童に「走り回るなら外で！」と話したこと、そして遊び方を「かくれんぼ」に変えたことも大きい▼相変わらず、みんなでよってたかって私を「おに」にしたがる（笑）。まあ一回目はよいとして、「二回目もね」とか言い出したら「ダメダメ！そんなの社会じゃ通用しない」と突っぱね、「社会の厳しさ」を教えることも忘れない。潤徳小の校訓の一つに「野性味」という言葉もある。子どもたちには、たくましく育ってほしいのだ▼子ども時代、私はかくれんぼの達人だった。上級生が「（みわともは）細か所にも隠れるけんね」と探しながら言ってるのを聴いて得意げだったのを思い出す。今もその才能を発揮中である。私は、子どもだからと手は抜かない！